

〔永昌記〕長治二年正月十四日癸未、臨晚藏人文章生廣房奉仕御裝束、依有内論義也、其儀上御殿南格子等、撤日記御厨子、略下

〔吾妻鏡九〕文治五年八月廿二日己酉、申剋著御于泰衡平泉館、主者已逐電、家者又化烟、略中、但當于

坤角有一字倉廩、遁餘焰之難、遣葛西三郎清重、小栗十郎重成等、令見之給、沈紫檀以下、唐木厨子數脚在之、其内所納者、牛玉犀角、象牙笛、水牛角、紺瑠璃等笏、金沓、玉幡、金華鬘、以玉飾之、蜀紅錦直、不縫帷、金造鶴、銀造瑠璃灯爐、南廷百各盛等也、

〔明月記〕寛喜二年正月十五日戊寅、後聞行幸被儲置物、以錦造厨子、略下

〔吾妻鏡三十九〕寶治二年四月七日甲申、今夜盜人推參幕府、盜取御厨子以下重寶、略下

〔將軍徳川家禮典附録十一〕右大將様徳川家定御婚禮之次第、天保十二辛丑年五月廿八日、略中

姫君様御入興御道具出來之内、中
濃梨子地、若松唐草兩御紋ちらし、
一御厨子棚

一節

御覆花色純子、兩御紋付、御飾御道具

黒棚

〔書言字考節用集七〕器財黒棚正曰齒

〔女重寶記五〕女用器財黒棚一流

〔類聚名物考六〕くろだな 黒棚

今の世に、女の調度のまつらひに、このもの有り、なにのゆるをもえらす、是はむかしの二階厨子を唐様に作りたるものなり、

〔倭訓栞久編六〕くろだな 黒棚と書り、厨子の類なれば、くりやだなの轉せし成べし、侯家の婚禮

に用ゐるもの也、徒然草に、くろみだなといふは、膳棚の事なりといへり、されば黒棚もくろみだなにて、臺所にてす、ける義成べし、